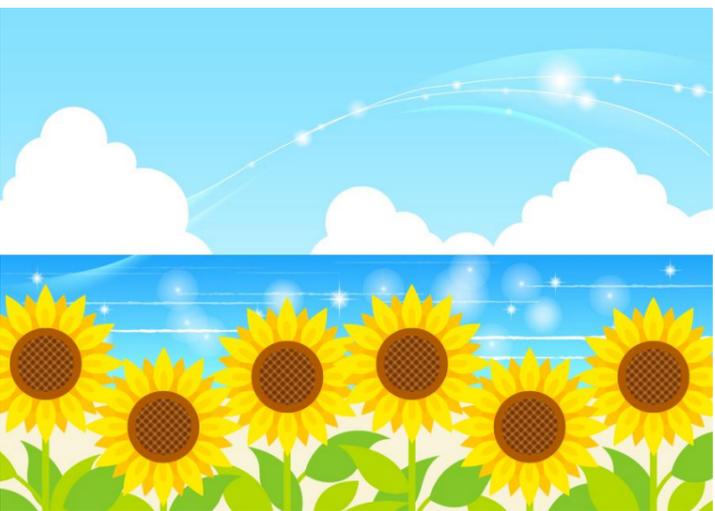


『ほつとたいむ通信』 第八十二号

梅雨の晴れ間にのぞく太陽は、もう夏の陽さしです。
今回は価値観が変わると人生も変わるお話を題材にしまし
た。



「一番大切な十円玉」

知的障害がある女の子が両親と暮らしていましたが、お母さん
が病気で亡くなってしまうました。本当は親子で一緒に暮ら
したかったのですが、周りの人の勧めもあり女の子は施設にあ
ずけられて、お父さんと別々に暮らすことになりました。

施設では、社会に出ても通用するようにお金の訓練を行いま
す。

この女の子も、一円から五〇〇円までの硬貨を順番に並べて
お金の価値を勉強していました。試験のときに先生が、

「一番大切なお金はどれですか？」

と女の子に聞くと、女の子は笑いながら一〇円を指差しまし
た。何回も先生が、

「五〇〇円が一番大事だよ」

と教えても、女の子は繰り返し一〇円を指差しました。困り
果てた先生は、

「どうして一〇円が大事なの？」

と聞くと、女の子は、

「だってこの一〇円をあの公衆電話に入れたら、大好きなお父
さんの声を聞けるから……」
と答えました。

自分でも気づかないうちに、お金で価値を考えてしまうこと
があります。本当に大切なものはお金では買えないものです。



いろいろなことを楽しむのにお金は必要です。お金があったほ
うがないよりも幸せになれるとは思いますが。しかし、お金があ
つても不幸な人はたくさんいます。お金を儲けるために体を壊
したり、友人を失ったりしている人がいます。

「自分の大切なものを三つあげてください」

と言われたら何をあげますか？

健康、家族、友人など、お金で買えないものをあげる人も多
いと思います。

何に価値を置くかによって人生は決まってしまうます。

価値観が変わると人生が変わります。

「小さな幸せに気づく24の物語」より抜粋

株式会社三悦

代表取締役 樋田 浩三

令和六年七月